

# 基調講演「里山を活かす上勝町の戦略 ―“彩産業”とゴミ作戦―」

徳島県勝浦郡上勝町役場参事 星場 真人

徳島県の上勝町からやってきました、星場です。田舎で生まれ育ったこともありまして、人前で話すことが非常に苦手です。今もあがっております、もしかしたら口を滑らせて変なことを言うかもしれませんが、その時はご容赦いただきたいと思います。今日は、私たち上勝町の取り組みの一部をご紹介します、皆様の参考になればと思います。



まず最初に、上勝町がどこにあるか皆さん知らないと思いますので、わかりやすくご紹介します。上勝町は徳島県のほぼ真ん中、徳島市から車で約40分の所にあります。比較的近いですが、しかしこれだけ近いにも関わらず、過疎が非常に進んでおります。



面積は110平方kmあり、うち山林が85%という杉林に覆われた地域です。人口は現在2092人で、もう既に2100人を切りました。高齢化率がいい意味でも悪い意味でも非常に高く、これをどういう風に考えていくか、5つ課題を挙げてみました。これは上勝町の困

りごとそのものです。

上勝町は非常に高齢化が進み、森林農地が荒れていきます。町の財政も悪化していますから市町村合併も必要になってきたのですが、その相手がいない。その他、様々なゴミ処理等の問題も起こってきています。私の町は勝浦川の最上流にありますから、もしここで水が汚れますと、当然ながら小松島市、徳島市など下流の地域の方々にご迷惑をかけてしまう、そういった大きな問題も起こってきます。

そして町内産業が衰退している、これは若い人が減り人口が減ったためです。これらの課題を解決するためにどういったことを行っていか、というのが知恵の出どころになってくると思います。

### 上勝町の困りごと（課題）

- 少子高齢化による人材の不足
- 森林や農地の荒廃
- 町財政の悪化と市町村合併
- ごみ処理などの廃棄物による大気や水質の汚染
- 町内産業の衰退

現在、7つのプロジェクトを立ち上げ、それに基づいて対策を進めています。まず、行政評価改革プロジェクト、行革といわれるものです。それから若者定住、森林農地適正管理、経済政策、生き甲斐づくり、健康づくり、ゴミ処理についてプロジェクトチームをつ

### 課題解決に向けての取り組み

- ▶ 行政評価システム 改革プロジェクト
- ▶ 若者定住 地域づくりプロジェクト
- ▶ 森林 農地適正管理プロジェクト
- ▶ 経済政策プロジェクト
- ▶ 生きがいづくりプロジェクト
- ▶ 健康づくりプロジェクト
- ▶ ゴミ処理プロジェクト

くって進めています。

そこで、現実的に具体的にどう行っていくかということですが、一番大きな柱は若い人の働きの場がないということですので、第3セクターによる職場づくりを最優先に進めてきました。

### 第3セクターによる町づくり



- 上勝バイオ (H3. 4)
- かみかついっきゅう (H3. 11)
- ウインズ (H8. 4)
- もくさん (H8. 7)
- いろどり (H11. 4)

菌床椎茸を栽培する上勝バイオ

そのために全国的にもめずらしいといわれていますが、約2100人の町で5つの第3セクター、株式会社をもっています。それが、株式会社上勝バイオ、株式会社かみかついっきゅう、株式会社ウインズ、株式会社もくさん、株式会社いろどり、です。

### 月ヶ谷温泉「月の宿」の改築



- ◆ 若者の職場確保
- ◆ 観光拠点づくり
- ◆ 環境への配慮
- ◆ 他産業との連携

株式会上勝バイオというのは、町の主力品目であるしいたけの製造、販売、菌床の製造、研究、販売を行う会社です。

### 木材加工に取り組む(株)もくさん



- 地域資源(木材)を活かす
- 若者の職場づくり
- 環境に優しい産業の育成(二酸化炭素を固定する森づくり)

株式会社かみかついっきゅうは、温泉を中心とした観光を支える会社で交通もここで行っています。町には町営の施設である月ヶ谷温泉というのがあり、町がつくってその管理運営をこの会社に任せています。ここには月の宿というホテルがあり、若者の職場確保、観光拠点、環境への配慮、他産業との連携をここで図っていこうとしています。

株式会社ウインズが測量会社です。国土調査法に基づく国土調査を受託、測量、環境に関する調査、観測、分析等を管理運営する会社です。

株式会社いろどりというのが、皆さんもご存知の通り、上勝のいろどりをどう売ってかという取り組みをするところ、情報センターになっています。

株式会社もくさんは木材産業の略で、町内産の木材を使って加工品の販売や、建築設計、建築に関するコンサルタント等を行う会社です。地域の資源を生かす、若者の職場の確保としての役割があります。そしておもしろいのが、環境に優しい産業の育成ということで、木材は炭酸同化によって二酸化炭素を低下させる役割がある、それを担う森もこの会社が育てていく、ということです。上勝産の木材をつかった住宅のモデルハウスを作りまして、全国の方々に買っていただいて、地球上の二酸化炭素をできるだけ低下させていきたいな、とこんな風に考えております。

それから最近、構造改革特区と並んで地域再生がいらわれていますけれど、この地域再生のモデルになったのが、文科省の建物である廃校を建設省所管の住宅にしたものです。かつては町内に5つの小学校と2つの中学校がありました。学校統合により小中各一校ずつにしました。そこで空いた校舎を何とか使える方法は

### 1Q運動会とは? (コミュニティビジネス!)

1Q運動会(まちづくり)の基本的考え方  
5kgの荷物を背負って山に登る場合に...

命令で登ると重たく感じる

自発的に登ると軽く感じる

楽しく面白いまちづくり!

ないかと検討した結果、文科省の補助金をもらって建てた小学校の建物を建設省所管になりますが住宅に改造しようというものでした。これについては当初、県も非常に難色を示しまして、全部補助金を返還しろという話がありました。しかし、同じ国のお金で造ったものをなぜ返還しなければならないのか、それはおか

しいとやりあい、最終的には国に判断を求めた結果、認められまして、文科省の学校施設が建設省の住宅になった。こういったことが最初に起こりました。これは大きなモデルとなったと思います。

## 廃校舎で若者定住を進める



- 事務所と住宅に改築
- 文科省の廃校利用50選に！  
(地域再生のモデル)
- 2企業と8世帯の若者が入居

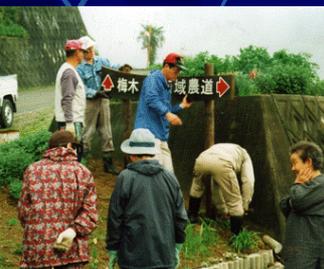
旧福原小が複合住宅に变身！

それから、こういった様々な知恵を出すために、上勝町では人づくりも行っています。これは「いっきゅう運動会」という形で取り組んでおります。これは考え方なのですが、「いっきゅう」というのは「1Q (ワン クエスチョン)」、一つの物事に対して一つの疑問をもって考えていこうじゃないかというものです。実はこの前、昨年代わられたトヨタ自動車の社長さんが最初の記者発表を行いました、その時に私たちが取り組んでいるいっきゅう運動会と同じことを話されました。この社長さんすごいなあとは思いました。それは私が思っただけであって、本当はすでに全国で行われていることなのです。

やはり自分たちが物事を行うときに、命令によって

## 1Q運動会の活動

住民による課題解決の競争

みんなで作業すると楽しいね！

取り組むと非常に重荷に感じます。それに対して、自発的に動きますと重荷には感じません。例えばある地点に目標をつくります。そしてこの目標のところまで荷物を持って行きなさい、と命令されて行くと、たった5キロの荷物ですが非常に重く感じます。ただ5キロというと弁当くらいの重さですね。この弁当を自分で食べようと思って持って行きますと、全く重荷に感じません。そういうことで、地域づくりというのは、楽しくおもしろくやらなくてはダメなんだよというこ

とで、それをやっていける人をつくるのが人づくりです。こういったことを基本に取り組んでおりますから、様々なアイデアが出てくるのだと思います。

いっきゅう運動会の目的は、住民による課題解決を行っていくというのですが、普通と違うのは、この問題解決を競争させて順位をつけていこうという取り組みです。例えば、地域のおばあちゃんの家若い人が夜中の2時頃に訪ねて来られて困るというのです。これは、上勝町にある日本一長いスーパー林道に全国から若い人が集まって来るのですが、その方が道を間違え、しょっちゅうおばあちゃんちに入ってくるのだそうです。

これは案内板がないから迷ってしまうのだと、6人の若いメンバーが中心となって、地域の人をまとめてこの問題を解決していくことになり、住民の人と一緒に看板をつけている写真です。そして町内の大きな県道の壁に県の許可をいただいて、町の案内の大きな絵も描きました。そういった取り組みをどんどん行ってきたことによって、色々なことが進んできたのです。

## 過疎輸送事業：構造特区で生まれた有償ボランティアのタクシーが走る！



「お客さんの悩みや相談を受けたり、自分の話をお客さんに聞いてもらったりと私も楽しいです。このボランティアは私の生きがいです。」

その一つの顛れが、先ほどご紹介いただきました、特区による過疎輸送です。有償ボランティアでおばあちゃんも一緒になって、輸送手段を持たない住民の送迎または住民の足となってきました。

これはおもしろい取り組みですが、なかなかできないものだと思います。

それから、もう一つエコツー特区というのがありません。これはエコツーリズム特区ですが、上勝町は山の上にある檜原という地域の棚田を借り上げてまして、オーナー制を行っております。このオーナー制で何がすごいかというと、日本で一番高いオーナー制といわれています。高いというのは標高ですね、ここは標高700mくらいあります。そして標高だけではなくて、実はこの1a程の棚田を5万円でお貸ししています。ですから1反ですと50万円になります。そういう単価でお貸ししているのですが、貸せば貸すだけいくらでも借り手が出てくる状況でして、棚田のオーナー制というのが現在進められています。これは地域の財産を守っていく、先人の残した遺産を継承していくと

## エコツアー特区の取り組み



- 「棚田のオーナー制」による先人の遺産継承
- 「ワーキング・ホリデー」による都市住民の受入と農家民泊
- 農作業体験で働く喜び
- 若い労働力の確保
- 子供の声が聞こえる喜び

という取り組みです。

他にワーキングホリデーというものもありまして、様々な幅広い取り組みの中で、都会の方々に田舎に入ってもらいたいというのを、このエコツアー特区で行っています。もちろんこの中には、どぶろく特区も含まれています。ただ、色々と県の規制等ありまして、どぶろくはまだ販売できておりません。

## 彩(いろどり)



### 葉っぱをお金に換える

次に有名ないろどりについてです。これは葉っぱをお金に換えるというものです。これは、日本料理の季節感を出すために葉っぱをつまモノを利用します。

日本各地につまモノの生産地はありますが、上勝町のブランド名が「いろどり」です。以前アメリカでオートバイがホンダといわれたのと同じ様に、日本のつま

## 彩とは？

- 日本料理の季節感を演出する「つまもの」の上勝町産品のブランド名
- 女性や高齢者が生産主体で、従来、板場で行われていた作業のアウトソーシング。



モノが「いろどり」という名前代表されるようになってきました。現在も市場の70%くらいを、この上勝町のいろどりが押さえております。これは知恵ですね。元々は板場さんが行っていたものをいわゆるアウトソーシングということで田舎のおばあちゃんの所に仕事を回して頂いたのです。何でこれが有名になったかというと、今年の3月にも京都の公園で桜の枝を折ろうとして板前さんが逮捕されました。こういった事件が起こりますとなおさら商品としてのブランドが表に出てくるようになり、上勝のいろどりがどんどん売れているという状況です。これは私が説明するよりも、みなさん既に何度かテレビで見られていると思いますので飛ばします。

21世紀は環境の世紀といわれています。環境というのは一つのことではなくて、色々なことがあります。身の回りのもの全て環境ということが出来ます。以前、私の町の廃棄物を島根県の施設で処理をして頂きました。そして私もそれを一度見ておかなければならないと思い、見に行きました。その時の写真です。

## 21世紀は環境の世紀



こういうところで上勝町のゴミが処理されてきました。これはひどいのではないかと、ということでここに送ることを止めました。こういった非常に多くのゴミは、我々の豊かな生活を成り立たせるために、裏ではこんなにも多くのゴミを出さなければならないという現実を現しています。やはり人類最大の課題といわれているのは、この汚されている環境をどのように守っ

## 豊かな生活の影にあるもの



ていこうか、ということになってくると思います。上勝町では、日ヶ谷ゴミステーションというところで、町のゴミを一箇所に集めて処理していますが、ここは実はゴミステーションではなく、現実には資源ステーションでして、ここに集まってくるのは全て資源であるという考え方をしています。住民の方は毎日毎日ゴミを34の分別をして、それをここに持ち込んできて、さらに分別されていきます。これは行政がやらなくてはならないのですが、現実の話をすれば住民の方々がやっているのです。他と違うのは、ここは毎日朝の7時半～午後2時まで持ち込み自由ということになっています。逆に行政は収集しないので、住民の方は自分で持ち込まなくてはならないのです。ただ、年間に3日だけお休みをいただいています。

上勝町のゴミの分別は行政が34分別と指定し、それに基づいて資源として活用していこうとなっているのですが、現実には住民の方々はここに持ち込んできて、現在の分別は大体55種類に分かれているのではない



かだと思います。ただこれは、55種類と固定はしていません。というのは、住民の皆さんがやりやすいように行っていますから、もっとこうしたほうが良いのでは



ないかと新しい提案が出てきて数が増えたり、実際やってみたら難しいと減ったり、二つを一つにしたりと様々なことを行いますので、55種類というのは常時変わっています。ですから、色んなことが細分別、細分化されているのが現実です。

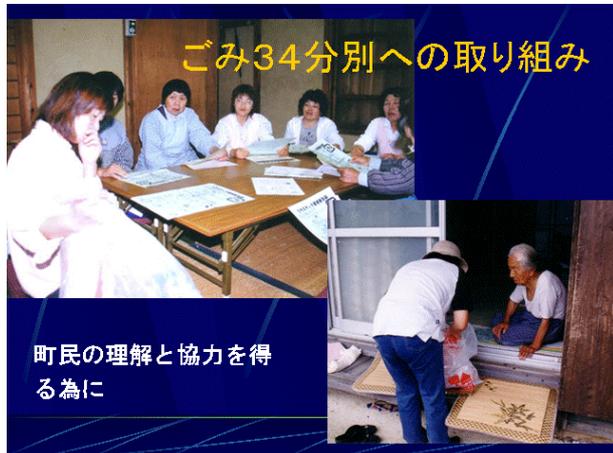
この34分別を行う際に、やはり何をするにも住民の方々の協力なしには物事は進まないということで、協力を得るために説明をして回りました。お母さん方に集まっていただいて説明する、おじいちゃんおばあちゃんの各家庭を回って説明するということの繰り返しで現在まで進んでまいりました。

現在のところ、このゴミステーションにゴミを持ち込んで、お母さんが子どもの教育の場としてゴミの分別を行っています。住民の方に協力をさせていただくために、1から34の番号をふるだけではなく、なぜ分別するのかという説明を少し詳しく書いています。例えば、アルミ缶を再分別することで、私の記憶が確かであれば、約95%のエネルギーが節約されると説明されています。またCO2の排出量が5分の一になると書か

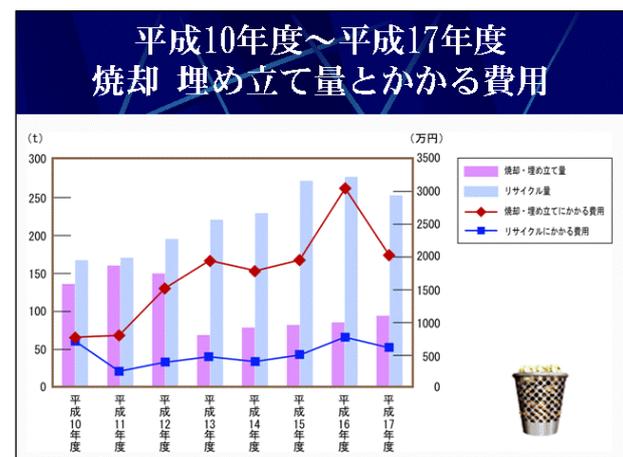
れています。やはりお母さん方ががんばるのもよいのですが、子どもたちが一生懸命がんばっているというのが非常に大事なことなんです。というのは、今お母さん方は行政の仕掛けによって分別を行っています。しかし、子どもたちはこれを倣い、これから未来にかけて子どもたちが行政の助けをなしに自ら取り組みを行っていくようにつながっていくことを期待しているからなのです。お母さん方は、自分たちはやらされて大変だという感覚があるかもしれません。しかし、行政も取り組んではおりますが、それ以上にお母さん方が次の世代を育成するための取り組みを行っている、ということに本当の意味があるのではないかと思います。

では、なぜ上勝町で他と違う取り組みが始まったのかというと、先ほど2年前に訪問していただいて面白かったというのもこの話ではないかと思いますが、生ゴミ対策です。以前はどこでもコンポストを使って処理をしていました。今ではゴミナイスという機械を各家庭で一台ずつ持っていてゴミの処理をいただいています。上勝町でこのようなことをなぜ行ったかということ、実はゴミを焼却すると非常にお金がかかります。特に私たちの町では、焼却炉を持っていま

せんし、最終処分場もっておりません。収集のための車も持っていません。ですので、ゴミとして処理するとなるとどこかにお願いしないと処理できません。非常にお金がかかります。こんなにお金をかけるのであれば、もっといい方法があるのではないかと色々考えました。そして考え出されたのが、このゴミナイスを利用しようということなのです。



なぜかという、ゴミの再分別をしようとする、ゴミは汚いのでなかなか取り組みが大変です。そこでなぜゴミが汚いかと考えると、生ゴミと一緒にあるか



ら汚いのです。生ゴミがなくなれば、ゴミって結構きれいなんです。生ゴミが非常に大きなネックになっているんです。臭いも出るし触れば汚いという理由でなかなか進まないということがあったので、最初に生ゴミをなくそうとこの取り組みを始めたのです。焼却をやめれば町に大きなお金が浮いてくる、このお金を浮かすためにゴミナイスのような機械を取り入れてもいいのではないかとりました。

実は、上勝町では当初、焼却炉をもとうという計画を進めていました。そしてその焼却炉（実際はボイラー）をつくるために、そこから熱をとって株式会社もくさんの木材乾燥をしようという計画しました。その焼却炉をつくるのに約2億円かかるという計算が出ていました。この2億円惜しいなと思い調べたところ、生ゴミも含めてゴミと一緒に焼くとしたら2億円かかるという計画だったのです。皆さんもご存知の通り、家

庭ごみに占める生ゴミの組成は全体の3分の1といわれています。上勝町では半分くらいありますが、全国



平均ですと3割といわれています。この生ゴミを燃やすためにはその分温度を上げなくてはならず、そのために重油も燃やさなければならないのです。そこでこの生ゴミを取り除けばどうなるかという、焼却炉を小さくすることができます。そのインシヤルコストを単純に計算すると7000万くらい浮いてくる。当時、生ゴミ処理機の購入を計画した時には、これが23万くらいしました。その後業者さんと折衝した結果、工場と直接取り引きして6万円まで値切りました。上勝町は約800戸、1000戸あるとして、これを1台6万円で全戸に配布しても6000万、差し引き1000万円儲かるということで、町長からもOKをもらい、これを導入することになりました。

そういった経過があります。ただ、この経過の中には様々な問題が出ていますけれど、最終的にはこの機械の導入によって、後に出てきた分別がどんどん進むことになりました。

しかし、この機械は（容量が）1キロで、MAX2.7キロということになってはいますが、能力的に非常に低いです。農家などでは、1日に5キロくらい生ゴミがでてすぐに一杯になってしまうので、こいうったもの（コンポスト？）も併用して使っていただいて、現在



そういった取り組みを行ってきた結果、簡単に見ますと焼却埋め立ての量が、平成13年から極端に減りました。平成12年までは町で焼却していたのですが、13年からは町での焼却をやめ、ここから分別を始めたのです。実は平成9年から分別は行っていたのですが、平成13年1月15日から35分別を始めたのです。ですので、資源としてのリサイクル量がどんどん増えて、焼却の分が極端に減りました。この平成13年1月15日で焼却炉を閉鎖したのです。しかしその後、徐々に増え始めます。これは日本の政治的な部分の影響もあり、日本の商品はどんどん包装が丁寧に精巧にされるのが進んでいて、ゴミが増えているというのがあります。もう一つ日本で大きな問題があります。これは不法投棄促進法という法律が日本でつくられたことです。こういう言い方をすると、政治を知らないのではないかと思われてしまいますが、我々はそう呼んでいます。本来はリサイクル法です。国はいろいろなものをつくりまして、まず容器包装リサイクル法、家電リサイクル法、車もそうですね、どんどんリサイクル法が増えてきています。これは今まで無料で収集されていたものが、収集にお金がかかるようになってきました。パソコン1台出すとこれまでは無料だったのに、5000円とか7000円のお金がかかるようになってきました。そうすると住民の方も経済的に厳しいですから、業者さんに引き取ってもらうのではなくて、上勝に来て温泉に入る前にちょっと山を見に行き、そこに捨ててくることが起きています。そういうことがあって、町内にゴミが持ち込まれています。そういったものを集めてくるとゴミが増えてくる、という現状になっています。ただそれと平行してリサイクルされる量も増えてきています。ですからゴミ全体が増えているということになっています。台風が多くきた年には若干お金が多くかかっていますが、状態としては徐々に経費は増えていますが、全体のお金は減ってきています。

現在の上勝町のリサイクル率は約80%です。日本の平均が約15%~17%というのを考えますと、ダントツ

## ゼロ・ウェイスト (ごみゼロ) 宣言

1. 地球を汚さない人づくりに努めます！
2. ごみの再利用・再資源化を進め、2020年までに焼却・埋め立て処分をなくす最善の努力をします！
3. 地球環境をよくするため世界中に多くの仲間をつくります！

に高いのではないかと思います。ちなみに世界をみて

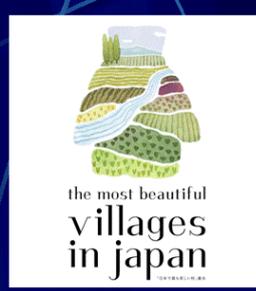
みますと、今ニュージーランドでは70%を目指そうとしていますから、いかに80%という数字がいいといっているかな、というのがわかっていただけたと思います。

そういったことがあり、今、上勝町では「ゼロ・ウェイスト(ゴミ0)宣言」というのをしています。これは一つには地球を汚さない人づくりをしよう、二つには、ゴミの再資源化をしよう、焼却をしない、埋め立てをしないという二つの柱を立てることによって、全てのゴミを再資源化しようゴミをゼロにしようという取り組みなのです。こういう取り組みは、今世界で進んでいます。この「ゼロ・ウェイスト(ゴミ0)宣言」というのは、実はオーストラリアのキャンベラで始まった宣言でして、オーストラリアから始まり、ニュージーランドでは今、自治体の65%が宣言したということで、半部以上の自治体が宣言しているのです。日本ではまだ上勝町だけです。

この「ゼロ・ウェイスト(ゴミ0)宣言」、東京の町田市、人口40万人の市でこの2月に市長選挙がありまして、新しい市長さんが当選されたのですが、その市長さんがマニフェスト、公約に入れたのがこの「ゼロ・ウェイスト(ゴミ0)宣言」なのです。ですから来年の2月頃までには町田市でもこの宣言がされるといわれています。これからはこのゼロ・ウェイストというのが進むのではないかとされています。

実は、上勝町ではこのゼロ・ウェイストを進めるためにNPO法人をつくりました。皆さんのお手元に「くるくる」という冊子が一緒に入っていると思いますが、この資料をゼロ・ウェイストアカデミー、訳すとゴミゼロ研究所、このNPOがつくっています。上勝町は世界の流れを酌んで、世界と一緒に地域環境を良くするための取り組みを始めています。

## 「日本で最も美しい村」連合を設立



参加資格の基準

- 人口が1万人以下であること
- 人口密度が1平方キロメートルあたり50人以下であること
- 景観・環境・文化等の地域資源が2つ以上あること

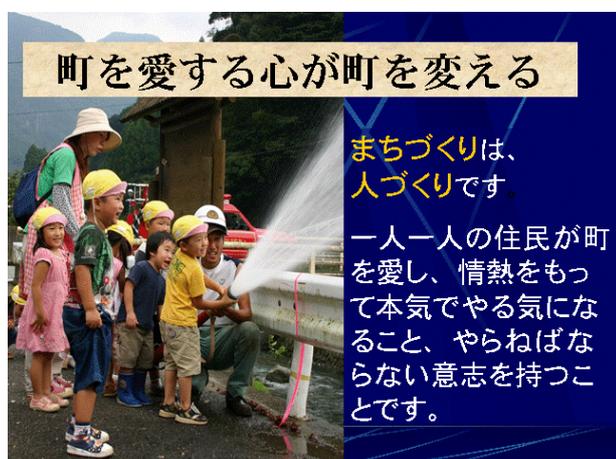
こういった上勝町の取り組み全てを含めて理解される人が日本にいました。日本で「日本で一番美しい村連合」というのをつくりました。これは北海道美瑛町の浜田町長さんが発起人なのですが、今日本で7つの町村が加入しています。これは参加資格がありまして、人口が1万人以下でなければならない、人口密度

が平方キロ辺り 50 人以下であること。私の町は人口 2100 人、人口密度は 18 人くらいになります。他に、景観・環境・文化の面で 2 つ以上の地域資源をもっていること、これが大きな条件になっています。この 3 つの条件が満たされる所が、この「日本で一番美しい村連合」に加入することができます。この組織の加入者もこれからどんどん増えていくのではないかと思います。

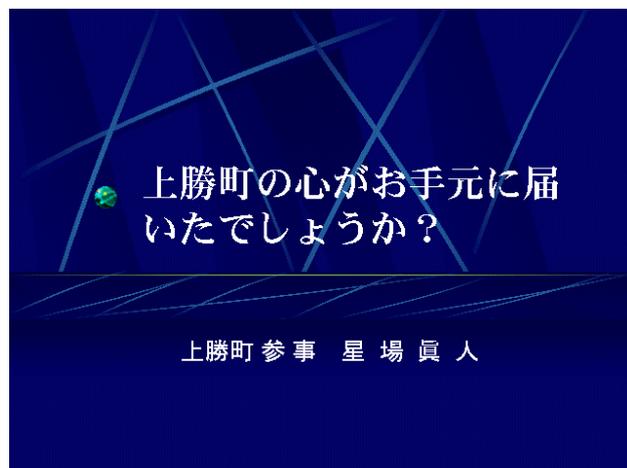
実は今、世界でも「世界で最も美しい村連合」というのができています。これに日本も一緒に参加して行



こうとしています。これはもともとフランスで始まった運動で、フランスでは初めから 60 以上の町村が一緒になって始まりました。これがどんどん大きくなって世界にこの情報が広がり、日本にもできたのです。日本では加入している所はまだ 7 つです。日本の中には 1 万人以下の町村は 500 近くありますが、条件が満たされない限り、全てが加入できるということはないでしょう。また加入しても意味がないと思われる町村もあるでしょう。しかし、これからの流れはこういう田舎を見直していこうという動きになってくるのではないかと思います。これは、今日のテーマでもある里山を守っていこうという運動の一環であると、私は思っています。



このような取り組みをどんどん行っておりますと、面白そうだと多くの方が私の町を訪れるようになって



きました。例えば、平成 17 年度に公式に私の町を視察に来られた方々の数は、355 団体、3459 人になります。考えますと、私の町は人口 2100 人です。町の人口の 1.5 倍方がいらっしやった。今年が多分 4500 人くらいになるのではないかと思いますので、人口の倍以上の方々がいらっしやることになります。訪れた方々は国内だけでなく、東南アジア、中南米からも多くの方が来られています。JICA のような団体の方々のお力もありますが、やはり地域資源、地域の環境を守っていこうという取り組みは世界の中でもおもしろいと受け止められ、それを見に来られる方が増えてきたのです。

このように上勝町は様々な取り組みを行ってきましたが、これを一言で申しますと、町を愛する心が町を変える、ということで人づくりを中心に行ってきた結果だと思っています。人づくりというのは、人間をつくっていくということです。極端な言い方をすれば、子どもをつくるということもあります。上勝町は子どもが非常に少ないので、子どもを増やしたいというのがありますけれど、町づくりは人づくり、住民の一人一人が町を好きになって情熱をもって取り組んでいかないと、こういった町づくりはできないということになります。

この写真をみて、みなさんどういう場面だと思いますか？多分、消防の方たちが子どもたちに消防の説明をして、子どもたちに水遊びをさせている場面だと思われると思います。しかし私の町では、こういった取り組みをみて消防団の方が子どもたちに遊び方を習っていると表現しています。こういうとらえ方が大切な視点ではないかなあと思っています。これからは、何のどこに光を当ててものごとを進めていくか、それをもう少し掘り下げて考えていく必要があるのではないかと私たちは思っています。この消防団の人たちが遊んでいるだけではなくて、町の全ての住民、町長からおじいちゃんおばあちゃん全ての方々が、毎日楽しく笑いながら地域づくりを行っていつている、そういうことに自信をもってこれからも取り組んでいきたいなと思っております。

こういったことの中に上勝町の心が表れていると思いますが、それが皆さんのお手元に届いて受け入れて

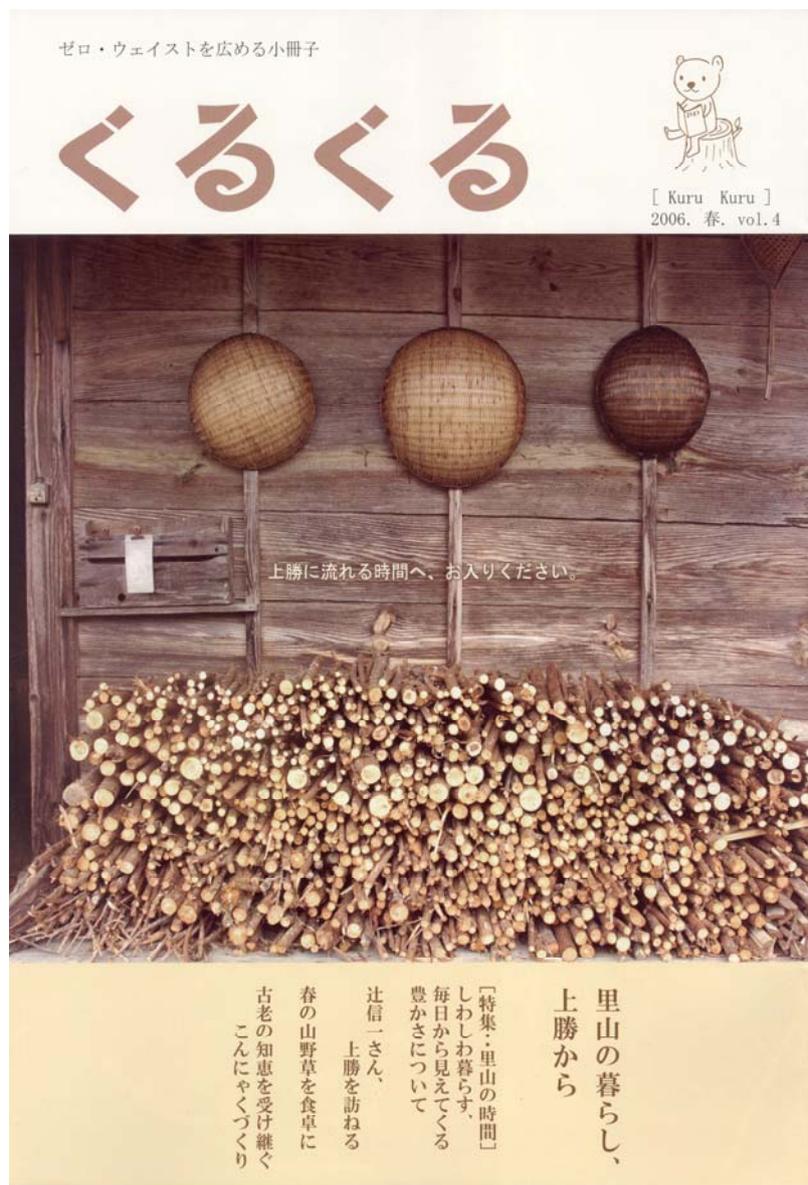
いただけたら幸いです。今日は、私の下手な紹介にお付き合い下さいましてありがとうございました。

**司会：小西由希子**

星場さん、本当にどうもありがとうございました。皆様にも今お話の中にもありましたが、情熱をもって本気でやっていく、そしてやらねばならないという意味をもつということで、私たちがこれまで活動してきたことに対して、何か応援のメッセージを頂いたの

はないかと感じます。そして町づくりは人づくりだということ、先ほどでました、「日本で最も美しい村連合」というのに私も入りたいと思いましたが、ゴミの多い千葉は到底入る資格は持ち合わせていないようです。しかし、それでも私たちそれぞれ活動している地域が、千葉で最も美しい町になるようにこれからも活動して行きたいなと思いました。星場さん、本当にどうもありがとうございました。

今一度大きな拍手をお願いいたします。



上勝町の取り組みを紹介する情報誌「くるくる」  
発行・編集：上勝町エコバレー推進協議会事務局 NPO 法人ゼロ・ウェイストアカデミー